

■温室効果ガス削減の目標

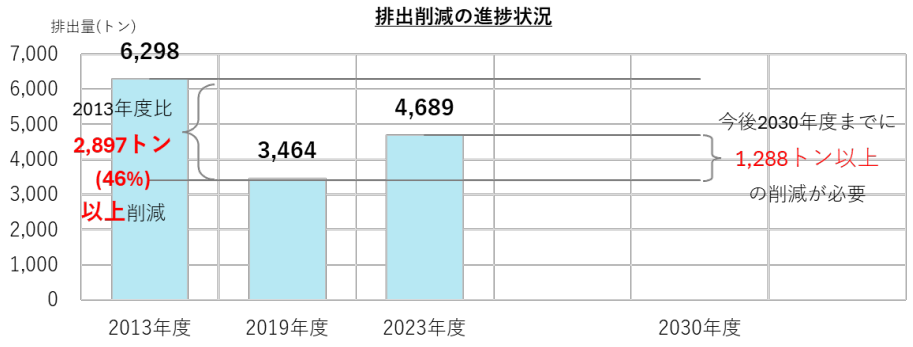
	削減目標 (政府目標値)
2030年度	2013年度比 46% (2,897トン) 以上
2050年度	カーボンニュートラル

■温室効果ガス排出量の推移

熊本空港の2023年度の温室効果ガス排出量は、2019年度比1,255トン増加の4,689トンである。
2030年度の削減目標 (2013年度比46%以上の削減) の達成には、今後1,288トンの削減が必要である。

	温室効果ガス排出量(トン)		
	2013年度	2019年度	2023年度
空港施設	5,896	3,084	4,312
空港車両	401	381	377
計	6,298	3,464	4,689

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数・・・2013年度：0.599、2019年度：0.347、2023年度：0.475

■2019年度～2023年度の温室効果ガス排出量の増減背景

熊本空港では脱炭素化施策の取組が実施されているものの、主に契約されている電力会社の排出係数上昇や建築施設の増加などにより、温室効果ガス排出量が2019年度に比べて増加した。

■脱炭素化施策の取組状況

空港施設に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 建築施設照明のLED化、建築施設の熱負荷低減、空調の高効率熱源の導入や省エネルギー運用等の取組が行われた。 ➤ 航空灯火のLED化の取組が行われた。
空港車両に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> ➤ EV、バイオ燃料使用車両、ハイブリッド車両の導入が行われた。
再エネ導入促進に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 太陽光発電の導入が行われた。
その他の取組	(当該期間に新たに実施した取組に関する情報なし)